

令和1年
第65回東京都十六高校対抗水上競技大会
—大会要項—

加盟校

都立青山高等学校
青山学院高等学校
都立桜修館中等教育学校
都立大崎高等学校
都立大森高等学校
小野学園女子高等学校
学習院女子高等科
都立北園高等学校
千代田区立九段中等教育学校
京華高等学校
京華商業高等学校
都立小石川中等教育学校
麴町学園女子高等学校
都立小金井北高等学校
都立駒場高等学校
駒場東邦高等学校
都立小山台高等学校

都立新宿高等学校
都立竹早高等学校
筑波大附属高等学校
筑波大学附属駒場高等学校
都立つばさ総合高等学校
東京大学教育学部附属中等教育学校
都立戸山高等学校
都立成瀬高等学校
日本女子大学附属高等学校
都立日比谷高等学校
都立保谷高等学校
文教大学付属高等学校
都立三田高等学校
三輪田学園高等学校
都立雪谷高等学校

(32校)

東京都十六高校水上競技大会 運営総務 編

なお、この資料は平成30年度4月のものである。

1. 開催校及び大会会長（第34回～）

回	年度	会場	大会会長	
36	1990年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校校長	高橋 道彦
37	1991年	筑波大学附属高等学校	筑波大学附属高等学校教諭	須貝 猛敏
38	1992年	都立小金井北高等学校	都立小金井北高等学校教諭	糸井 昌弘
39	1993年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
40	1994年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
41	1995年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
42	1996年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
43	1997年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
44	1998年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
45	1999年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
46	2000年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
47	2001年	都立九段高等学校	都立九段高等学校教諭	藤森 克悦
48	2002年	都立成瀬高等学校	都立成瀬高等学校教諭	奥秋 将史
49	2003年	辰巳国際水泳場	都立九段高等学校教諭	藤森 克悦
50	2004年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
51	2005年	辰巳国際水泳場	文教大学付属高等学校教諭	前畑 章子
52	2006年	辰巳国際水泳場	学習院女子高等科教諭	山本 智志
53	2007年	辰巳国際水泳場	小野学園女子高等学校教諭	熊坂 尚子
54	2008年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
55	2009年	辰巳国際水泳場	都立駒場高等学校教諭	鈴木 淳士
56	2010年	辰巳国際水泳場	都立新宿高等学校教諭	仮屋園 巖
57	2011年	辰巳国際水泳場	都立新宿高等学校教諭	仮屋園 巖
58	2012年	辰巳国際水泳場	都立雪谷高等学校教諭	浅沼 一弘
59	2013年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
60	2014年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭 小野学園女子高等学校教諭	井口 成明 熊坂 尚子
61	2015年	辰巳国際水泳場	小野学園女子高等学校教諭 学習院女子高等科教諭	熊坂 尚子 山本 智志
62	2016年	辰巳国際水泳場	学習院女子高等科教諭 文教大学付属高等学校教諭	山本 智志 前畑 章子
63	2017年	辰巳国際水泳場	文教大学付属高等学校教諭 千代田区立九段中等教育学校教諭	前畑 章子 山口 尚己
64	2018年	辰巳国際水泳場	千代田区立九段中等教育学校教諭 駒場東邦高等学校教諭	山口 尚己 吉川 悠希
64	2018年	辰巳国際水泳場	駒場東邦高等学校教諭 桐蔭横浜大学准教授	吉川 悠希 井口 成明

2. 十六校について

1) 起源

本大会は1956年にその起源を有し、その年第二回大会を開催して以降、年一回のペースで開かれている。当時の参加校数が大会名称の由来である。インターハイや全国J Oなどの全国大会に出場できない選手にも夏の最後に大会出場の手を渡したいとの趣旨で始められたと言われている。制限タイムが存在しないこと、標準タイムはあるがそのタイム規定のレベルが高くないこと、大会を卒業生が中心となって運営していることなどの点でその趣旨は現在も同じであると確認できる。

2) 大会規模

現在の加盟校は32校（平成31年4月現在）であり、昨年の参加生徒数は約800名。これに加えて、各校の卒業生・顧問・生徒の家族等が観戦に訪れることを踏まえれば、2日間でのべ1500名以上の大会となる。

3) 会場

2003年より大会が公認化され、東京辰巳国際水泳場での開催となる。48回大会までは公立高校などを使用していたが、大会規模の肥大によって安全面や会場校にかかる負担などの問題等から公認化され、東京辰巳国際水泳場の使用が可能となった。

4) 開催時期

例年8月末（23日～24日頃）としているが、一昨年度より他団体の競技会との兼ね合いにより8月15日～16日の開催となる。

5) 大会形式

本大会は対抗戦形式を取っている。ゆえに、個人競技と言われがちな水泳であるが、母校という枠の中で選手・卒業生などが一つのチームとなり、団体競技に近い雰囲気を持つ。

3. 競技会運営について

1) 各組織について

a. 顧問会

各加盟校の水泳部顧問により成立している。大会全体の責任を負っており、大会の主催を担っている。大会規模の肥大化により学生主体で責任を負える規模の大会ではなくなってきたため、顧問会の決定がなければ大会を開催することもできない。社会の中にある大会として、全加盟校の信頼を得るためにも最終決定権は顧問会にあるものとする。

b. 運営委員会

委員会の進行役である運営総務と各加盟校より選出され自校の決定権を持つ運営委員で構成される。顧問会が提案した枠組みの中で、大会をより良いものにする為に活動する組織である。大会運営に各校の意見を反映させることのできる機関でもある。運営委員会開催の日時・会場の手配は運営総務が行う。

c. 運営総務

大会運営上の実行組織で、大会の成功及び長期に渡る存続を目標とする。運営委員長・副運営委員長・会計・庶務・競技担当によって構成される。運営委員会の開催・議事進行など、仕事は多岐にわたる。

2) 大会主催について

大会主催は顧問会である。平成11年度までは十六校運営委員会が主催していたが、加盟校を卒業した学生のみで構成されていたため、万が一の事態に対する責任能力を考慮し、顧問会に変更された。

3) 加盟及び除名・出場停止

本大会への加盟校は大会規約「第三章 第二十六条」に掲げる条件を満たさねばならない。また、これらはいくまで「加盟」条件であり「大会出場」には新たな条件が存在する。よって、大会に参加せずとも加盟を続けることは可能である。

また、加盟校は、十六校大会の信用を傷つけ大会の健全なる運営を妨げたと運営委員長に判断された場合、当該校は大会出場停止・除名を含めた厳格な処分を受けることがある。

4) 大会参加

大会に参加する学校は大会規約「第四章 第三十七条」に掲げる条件を満たさなければならない。

5) 会場・設備

会場については「2. 十六校について」で触れた通り、2003年から東京辰巳国際水泳場を借用している。本大会の辰巳開催により、本大会の課題として十六校が東京辰巳国際水泳場からの信頼を得る為に試合中及び試合前後のマナーの徹底をしていくことが必要不可欠となる。各校は、ごみの持ち帰り等マナーに気をつけるよう現役生・卒業生に伝える。

また、来年も今年度と同様充実した設備・環境が確保できること、及び高校での大会開催は消防法等により不可能であることから東京辰巳国際水泳場を使用する方針である。

6) 運営費

運営資金は連盟費及びエントリー代を基本とし、それに協賛金、プログラム売り上げや記念品売り上げ等を加えて捻出している。上記の基本資金について以下に説明する。

a. 連盟費

大会の参加の如何に関わらず加盟校は支払わなくてはならない。連盟費は1校につき¥7,000とする。

b. エントリー代

大会出場校のみ支払う。エントリー代については以下の表を参照。

<エントリー代> (平成31年4月1日現在)

・個人種目：一人一種目出場につき (正選手)	¥800
(オープン選手)	¥800
・リレー種目：一チーム出場につき	¥1600

c. 協賛金

辰巳開催による会場借用費の発生により、支出の増加を補う為の収入とし、2003年より行われているものである。企業、個人、各校水泳部OB・OG会からの協賛を募るというもので、プログラム協賛への協力は以下の表を基準に協賛金を募集している。協賛者へは謝礼として1,000円につき協賛席付属の応援整理券1枚、5,000円につきプログラム1冊の贈呈を行っている。なお協賛席は下段A面前、中受付付近に設置する予定。

<協賛金>

① A4 1ページ	¥10,000
② A4 1/2ページ	¥5,000
③ 協力ページ記名	¥5,000

～費用の使い道について～

a. プログラム費

プログラムの印刷費である。印刷業者に発注してきたプログラムは冊子の形で販売している。

b. 保険加入料

金額については5ページの「8 保険・安全面」を参照。

c. 記念品代

53回大会よりグッズを作成している。役員Tシャツは60回大会に一度廃止されたが、2016年度に発案され役員には役員Tシャツを配布する。

d. 通信費・印刷費・事務用品費

通信費とは運営委員などへの運営委員会開催通知や資料の郵送料。印刷費は必要資料の印刷費。事務用品費とは、運営委員会で使用するボールペン・クリップ、大会などで使用するマジック・ガムテープ等の費用である。

7) エントリー

エントリーには、都高校等の公式大会で使用されているものと同じ WEB-SWMSYSを用いる。ただし、十六校大会独自の注意点等もあるので後日配布される資料を必ず確認すること。

今年度のWEBエントリー期間は7月1日～19日、エントリー提出日は7月20日(会場:未定)を予定している。尚、この予定は変更されることもある。

また、出場校はエントリーに際して、以下の(1)～(7)点を提出しなければならない。

- | |
|---|
| <p>① WEB-SWMSYS</p> <ul style="list-style-type: none">(1) エントリーデータ(2) 競技会エントリー情報<ul style="list-style-type: none">・競技会申し込み(エントリー) 一覧・競技会申し込み(エントリーTIME) 一覧・競技会申し込み(リレー) 一覧表・競技会申込明細表 <p>② 書類・エントリー費</p> <ul style="list-style-type: none">(3) 大会参加申込書(4) 大会申込総括票(5) 選手名簿(6) エントリー費(7) 連盟費(8) 応援整理券申込用紙(任意)(9) 速報申込書(任意) |
|---|

今年度よりエントリー書類に関して変更があることが予想される。6月ごろに通知するため、必ず確認のこと。

8) 保険・安全面

水泳という競技の特色上、水難事故が発生する可能性がある。また、選手の急激又は過度の運動による軽度の傷害も起こりうる。そのため、十六校では選手及び選手外生徒全員に傷害保険を申し込んでいる。この際、選手名簿を保険会社に提示するので、選手名簿に記載されていない選手は、万が一の事故に運営委員会が対応できないため、参加を認めることはできない。実際事故が起こった場合に保険会社から支払われる保険額は以下の通りである。

ただし、十六校の保険だけではまかなえきれないので各校で任意に保険に加入することを勧める。

(平成25年6月21日 現在)

死亡・後遺障害	: 500万円
入院(日額)	: 3,000円
通院(日額)	: 2,000円

また、大会開催期間中、万が一事故などが発生した場合にも適切な処置をしていただけるよう、顧問が最低一名は引率することが大会参加の前提となっている。さらに、第46回大会から競技役員にも傷害保険をかけることにより、より一層の保障拡大を目指している。事故の事前予防という観点からは危険な場所への立ち入り禁止を今まで通り徹底する。

9) 会場設営

大会開催に備えて前日から会場設営を行なう。清掃や競技順序・得点表などの掲示・放送機具・椅子・机の設置などが行なわれる。これらは加盟校の卒業生の手によってなされており、その全員ボランティアで参加している。それがまさに本大会の特徴であり、これらの人々の協力なくしてはこの大会の成功はあり得ない。

10) 標準タイム

種目		男子	女子
自由形	50m		45.0
	100m	1:25.0	1:35.0
	200m	3:00.0	3:20.0
	400m	6:00.0	7:00.0
	800m	13:00.0	
平泳ぎ	100m	1:40.0	1:50.0
	200m	3:30.0	3:50.0
背泳ぎ	100m	1:35.0	1:45.0
	200m	3:20.0	3:40.0
バタフライ	50m		50.0
	100m	1:35.0	1:45.0
	200m	3:20.0	
個人メドレー	200m	3:20.0	3:40.0
	400m	7:00.0	8:00.0

5. 第65回東京都十六高校対抗水上競技大会要項

1. 主催 東京都十六高校対抗水上競技大会顧問会
2. 主管 同上 大会運営委員会
3. 期日 令和1年8月15日(木) 開会式 9:00 競技開始 9:15
 令和1年8月16日(金) 競技開始 9:00
4. 会場 東京辰巳国際水泳場

5. 競技種目	男子				女子			
	100m	200m	400m	800m	50m	100m	200m	400m
・自由形	100m	200m	400m	800m	50m	100m	200m	400m
・背泳ぎ	100m	200m			100m	200m		
・平泳ぎ	100m	200m			100m	200m		
・バタフライ	100m	200m			50m	100m		
・個人メドレー	200m	400m			200m	400m		
・リレー	4×50m	4×200m			4×50m	4×100m		
・メドレーリレー	4×100m				4×50m			

6. 競技方法

- 1) 公益財団法人日本水泳連盟の競技規則に則って行う。
- 2) 競技は男女別学校対抗とする。
- 3) 予選・B決勝・決勝を行う。但し、400m以上の個人種目・リレーはタイムレース決勝とする。

<予選>

- ・各種予選競技種目はエントリータイムの遅いものから行う。
- ・予選終了後、ランキング及び決勝スタートリストを公式掲示板に貼り出す。予選通過者・及び補欠者は確認を取る。
- ・予選上位9～16位の選手はB決勝への出場権を得る。
- ・予選上位1～8位の選手は決勝への出場権を得る。
- ※16位と17位、8位と9位が同タイムの場合は抽選を行う。
- ※棄権者が出た場合は次点上位より順次出場権を与える。また次点の選手が、同タイムの場合も抽選により決勝出場者を決定する。

<決勝>

- ・得点・入賞については以下の通りとする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
個人	20	18	16	14	13	12	11	10	8	7	6	5	4	3	2	1
リレー	30	27	24	21	20	19	18	17	15	14	13	12	11	10	9	8

- ・同タイムだった場合は個人、リレーとも同じ点を与える。

例) 1位と2位が同タイム

→2人に1位に相当する点を与えて、3位の選手にはそのまま3位に相当する点を与える。

<順位決定>

- ・総合得点により順位を決定する。
- ・総合得点と同じだった場合、同率とする。

例) 3位と4位が同じ得点

→同率3位とし、5位のチームは6位とする。

7. 競技順序

1日目

1. 女子200Fr	予選	17. 女子200Ba	B決勝
2. 男子200Fr	予選	18.	決勝
3. 女子200Ba	予選	19. 男子200Ba	B決勝
4. 男子200Ba	予選	20.	決勝
5. 女子100Fly	予選	21. 女子100Fly	B決勝
6. 男子200Fly	予選	22.	決勝
7. 女子100Br	予選	23. 男子200Fly	B決勝
8. 男子100Br	予選	24.	決勝
9. 女子50Fr	予選	25. 女子100Br	B決勝
10. 男子800Fr	T決勝	26.	決勝
11. 女子400IM	T決勝	27. 男子100Br	B決勝
12. 男子400IM	T決勝	28.	決勝
13. 女子200Fr	B決勝	29. 女子50Fr	B決勝
14.	決勝	30.	決勝
15. 男子200Fr	B決勝	31. 男子4×100MR	T決勝
16.	決勝	32. 女子4×50MR	T決勝

2日目

33. 女子4×50R	T決勝	51. 女子100Ba	B決勝
34. 男子4×50R	T決勝	52.	決勝
35. 女子200IM	予選	53. 男子100Ba	B決勝
36. 男子200IM	予選	54.	決勝
37. 女子100Ba	予選	55. 女子200Br	B決勝
38. 男子100Ba	予選	56.	決勝
39. 女子200Br	予選	57. 男子200Br	B決勝
40. 男子200Br	予選	58.	決勝
41. 女子50Fly	予選	59. 女子50Fly	B決勝
42. 男子100Fly	予選	60.	決勝
43. 女子100Fr	予選	61. 男子100Fly	B決勝
44. 男子100Fr	予選	62.	決勝
45. 女子400Fr	T決勝	63. 女子100Fr	B決勝
46. 男子400Fr	T決勝	64.	決勝
47. 女子200IM	B決勝	65. 男子100Fr	B決勝
48.	決勝	66.	決勝
49. 男子200IM	B決勝	67. 女子4×100R	T決勝
50.	決勝	68. 男子4×200R	T決勝

8. 表彰

- 優勝決定の方法は、学校別・男女別得点の最多校を優勝校とし、優勝校には優勝杯を授与し、表彰する。
- 各種目第3位までの者に賞状を授与する。表彰は行わない。
- 男女別の学校得点で第6位までの学校に賞状を授与し、表彰する。
- 大会新記録を樹立した者には大会新記録賞を授与する。
- 女子4×100m リレーで優勝した学校には四継杯を授与し、表彰する。
- 男子4×200m リレーで優勝した学校には八継杯を授与し、表彰する。
- 女子4×50m メドレーリレーで優勝した学校、男子4×100m メドレーリレーの優勝した学校にはメドレーリレー杯を授与し、表彰する。

9. 開場と入場

1) 開場時間

開場時間は両日ともに7:30とする。尚、今年度は先行入場を行わない。

2) 入場方法

競技役員は警備員室側から入場。選手・コーチ・保護者・顧問はゲートからの入場となる。

※開場・入場時間が早朝なので、入場を待つ際には近隣の迷惑にならないよう、静かに待つこと

10. 招集

- 1) 初日の最初の種目は8:55、2日目は8:40とする。
- 2) 招集所へ行く選手は電光掲示板側の階段を利用すること。
- 3) 招集所での更衣は禁止とする。

11. ウォーミングアップについて

1) 朝（入場時から競技開始まで）

A面：両日ともに8:40まで第1レーンから第8レーンまで使用可。

B面：第1レーンから第8レーンまで使用可。

ダッシュレーンに関してはアップ中に通達する。

ただし、開会式中はプールの使用を禁止する。

2) 競技中

A面：レース使用

B面：第1レーンがダッシュレーン、その他レーンを周回レーンとする。

尚、B面でウォーミングアップを行う際、ターンサイド側からプールサイドに上がることを禁止する。

12. 清掃

- 1) 各校責任をもって持ち帰ること。
- 2) ごみを途中の駅のごみ箱に捨てたり、路上に放置したりしないこと。もしこれを怠った場合、嚴重注意をした上で、出場停止処分になることがあるので厳守すること。

13. 大会期間中の手続きについて

1) 書類の受け取り

プログラムを配布するので、各校代表者は必ず中受付に取りに来ること。

2) 書類の提出

a. 棄権票は必要事項を記入の上、コンピュータールームに提出すること。

b. リレーオーダーは、オーダー用紙に必要事項を記入の上、コンピュータールームに提出すること。

尚、締め切り時間に間に合わなかった場合は棄権とみなすので注意すること。

3) 大会速報

速報申込書は大会前に各校に配布する。申込用紙に必要事項を記入し、料金（一部2000円）を添えて、エントリー当日または、大会1日目の12:00までに中受付に提出すること。

14. 会場施設における注意事項

1) 施設内の立ち入りについて

a. プールへの入場は選手票、コーチ・顧問票を持った者のみとする。応援整理券での入場は禁止とする。また、ダイビングプールには立ち入らないこと。

b. 使用施設以外の場所には絶対に立ち入らないこと。

c. プールサイドでのサンダル等の室内履きは禁止し、競技役員以外は裸足とする。そのため、各校の選手はサンダルを入れるためのビニール袋を持参すること。電光掲示板下の階段に下足を放置しないこと。

d. 車・バイクでの乗場は禁止する。公共の交通機関を利用すること。

2) 控え場所について

a. 各学校は決められた観客席、またはバルコニーを利用してもらう。通路での応援等は禁止。

b. 荷物は毎日持ち帰ること。

c. 更衣室には荷物を放置しないこと。

3) 紛失・盗難について

- a. 会場施設内にて発見された落とし物はゲート横の受付に届けること
- b. 落とし物はゲート横の受付で管理しているので、落とし物をした場合はゲート横の受付に来ること。
- c. 落とし物は、大会終了後すぐに処分するため、落とし物に気づいた場合は速やかに問い合わせ先まで連絡すること。
- d. 盗難などに遭わないよう各校で持ち物の管理を徹底すること。
- e. 紛失・盗難について運営委員会では一切責任を負わない。

4) 事故について

選手が事故などで負傷した場合、応急処置は行うがその後の責任については大会参加申込書で述べているとおり、辰巳国際水泳場の役員の方々はもとより、運営委員会でも負うことはない。但し、選手及び競技役員は全員事前に全日程、傷害保険に加入しているので、怪我などをした場合には必ず本部に連絡すること。

5) その他

- a. 観客席の最前列は使用禁止とする。
- b. 更衣室はメインプール横にある更衣室を使用すること。また、招集所での更衣は禁止とする。
- c. トイレは更衣室のトイレと、売店横のトイレを利用する。
- d. 写真撮影・ビデオ撮影を希望する場合は撮影許可証が必要となるので、当日ゲート横の受付にて所定の手続きを行うこと。アリーナ内は撮影許可証の有無に関わらず撮影禁止とする。
- e. プールサイドでの飲食は禁止とする。
- f. 不審物・不審者を見かけた場合は、会場係もしくは本部に速やかに連絡すること。
- g. 会場内にあるコンセントは全て使用禁止とする。使用を発見した際には直ちに没収する。

15. その他の注意事項

- 1) 応援についてプールサイドでの応援は可能だが、入場制限をする為、応援前にタスキを配布する。メガホンやサンダル等の持ち込みは禁止とする。
また、今大会より応援制度が導入され、男子4×200mFR及び、女子4×100mFRのみ、大会運営に支障が出ない応援方法を許可する。そのような応援を希望する学校は大会一日目までに、必要書類を記入し、大会本部へ提出すること。

2) 競技役員

- a. 集合時間は後日連絡する。
- b. 有資格者・無資格者共に当日配布の役員専用Tシャツ、そして黒か紺のスラックスを着用すること。なお、全員共通で必ず白無地の靴を着用すること。
- c. 女子更衣室・役員控室・速報室を設ける。
- d. その他の連絡事項は追って連絡する。

3) その他

- a. 審判長の笛の合図が鳴ったら、生徒・卒業生・保護者を問わず静粛にすること。
- b. 競技進行の妨げとなるようなことは慎むこと。
- c. 不審者対策のため、応援整理券を販売する。

16. 最後に

- 1) 例年、卒業生や保護者の方に連絡が伝わってこないことが多々あるので、運営委員は生徒・卒業生・保護者を問わず連絡を徹底すること。
- 2) 大会開催中は上記連絡が徹底しているものと見なし、選手・卒業生を問わず、注意事項に違反した学校は十六校大会の運営・名誉に関わるため、会場からの退場・出場停止・除名勧告など、厳重な処置をとることとする。
- 3) 大会会場となる、東京辰巳国際水泳場に迷惑のかからぬようマナーを徹底すること。より良い十六校を作り上げましょう。
- 4) 疑問点等がある場合は下記連絡先まで連絡すること。
- 5) 変更点がある場合は追って連絡する。

— 問い合わせ先 —

【十六校大会運営総務】 16schools.general.affairs@gmail.com

運営委員長

牧野 勇登 (筑波大学付属駒場高校 卒業5年目)